

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (四日市市) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 8 月 28 日 (金) 11 時 00 分～12 時 00 分
現場視察 11 時 00 分～11 時 30 分
会場対談 11 時 30 分～12 時 00 分

2. 対談場所

四日市市立博物館 1 階 講座室
(四日市市安島一丁目 3 番 16 号)

3. 対談市町名

四日市市 (四日市市長 田中 俊行)

4. 対談項目

- 1 伊勢志摩サミット(ジュニアサミットを含む)における四日市市の地域資源や施設の活用について
- 2 ユネスコ無形文化遺産登録に向けた情報発信
- 3 県立工業高校における専攻科設置について
- 4 多文化共生事業における三重県との連携について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

田中市長におかれましては、今日は 1 対 1 対談のお時間を設けていただきまして、どうもありがとうございます。また、たくさんの傍聴の皆さんもお越しいただきましてありがとうございます。今日はプラネタリウム、そして「四日市公害と環境未来館」を視察させていただきました。またこの後の議題にも関係してこようかと思えますけども、四日市さんにおかれましては、先般伊勢志摩サミットに関係する行事を四日市市において行ってほしいというご提案を商工会議所さんと一緒になってご提案いただきました事、改めて感謝を申し上げます。

サミットの成功の要素の 2 つめとして「全県の取り組みとなること」を私常々申し上げておりますので、こういう形の提案というのは大変ありがたく存じているところでございます。

昨日も早速プレスツアーの第一弾として、ASEAN10 か国のプレスの皆さんがこ

の四日市を訪れていただきこの「四日市公害と環境未来館」も見ていただきました。カンボジアをはじめ多くの ASEAN の記者の皆さんが非常に感銘を受けて帰っていただいたと聞いているところであります。

そういう形で全県が盛り上がる、全県に波及するサミットができるようにこれからも工夫をしていきたいと思っております。それ以外にも今日また限られた時間ですけども、有意義な時間にできればと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

四日市市長

皆さんこんにちは。鈴木知事には大変お忙しいところ、四日市市と県が連携協働して取り組むべき課題について毎年こうやって直接提案や要望をさせていただく機会を与えていただきましてありがとうございます。

今日は特別に3月にオープン、あるいはリニューアルオープンしたばかりの3つの施設を駆け足で見学していただきました。特にプラネタリウムでは知事と私の誕生した日の星空を再現していただいて。知事は獅子座、私はさそり座なんですけど、各星座の性格紹介でもいいところばかり言っていただきまして大変気をよくしているところであります。

回りきれなかったところは、後ほどお時間のある時にゆっくり視察をしていただければと思っておりますし、またこの3つの施設は三位一体のものとして、四日市のシンボル施設ですので、ぜひ県の方でも情報発信の方よろしく願いしたいと思います。

それでは今日の対談よろしくどうぞお願いいたします。

(2) 対 談

1 伊勢志摩サミット（ジュニアサミットを含む）における四日市市の地域資源や施設の活用について

四日市市長

まず「伊勢志摩サミットにおける四日市市の地域資源や施設の活用について」というテーマです。

三重県におかれましては、来年5月の伊勢志摩サミットの開催が決定されて、今準備も着々と進めておられると思います。その中で、四日市市の消防本部は伊勢志摩サミットに係る三重県の代表消防機関として参画をさせていただいており、サミットの開催期間中は四日市の消防長が統括警戒本部長として安全対策の大変重要な任務を担わせていただくことになっております。本市といたしましても、この安全対策を含め、全面的に協力をさせていただきますので、今

後ともよろしく願いいたします。

さて、改めて申し上げるまでもなく、今回のサミットは三重県の様々な魅力を世界に発信する千載一遇のチャンスです。各国の首脳自身が出席するサミットの本会場は伊勢志摩ということで決定済みですので、三重県全体で盛り上げていくという視点で言えば他の会場については四日市を中心とするこの北勢地域で担当するのがごく自然ではないかと考えております。四日市市は先ほど知事からご紹介のありました通り、先日商工会議所の小林会頭と共にジュニアサミット・プレスツアーなどに関連して知事に直接要望書をお渡ししたところですが、本日は改めて、具体的に提案や要望をさせていただきたいと思っております。

ジュニアサミットの開催につきましては、正式にどこで開催するか、あるいは開催自体も決まっておりますが、三重県での開催が正式に決まれば、ぜひジュニアサミットを中心に本市が有する地域資源、あるいは施設の活用を図っていただきたいと思いますと考えております。例えば今日視察をしていただきましたプラネタリアムにつきましては、知事もご存じのように設備面では世界一流と自負しておりますし、一方で JAXA とも提携をしております、強い協力関係がある中で、例えば現役の宇宙飛行士に来ていただいて、ご講演をしていただくとか、一段とジュニアの世代を対象に深みのある体験プログラムを検討できるのではないかと考えております。

次に、四日市公害と環境未来館ですが、こちらの方は都市における産業の発展と環境保全の両立、どの国にとっても非常に重要な欠かせないテーマについて深く学び考えていただく最適な施設ではないかと思っております。くしくも、ジュニアサミットを主催いたしますユニセフでは「持続可能な開発」を大きな原則として掲げておまして、環境未来館の趣旨とぴったり一致すると思っております。公害対策のモデル都市としての四日市の歩み、またその過程で培ってきました環境技術、環境管理のノウハウ、こういったものを学習していただいて、ぜひ若い世代の、今後の活動や行動につなげていただければと願っております。

さらには、ICETT における海外研修生受け入れの豊富な実績もありますし、天津市とロングビーチ市と友好都市、あるいは姉妹都市提携を結んでいる中で、毎年四日市で高校生による「地球環境塾」というものを開催しております、その経験もございます。そして加えて、多くのホテルや食事場所など、海外から多くの方を受け入れて有意義な体験・研修をしていただくためのハードとソフト、両面での条件が揃っていると思っております。

なお、ジュニアサミットの会議の会場としましては、本市の場合は大中小様々な規模の施設が揃っておりますし、場合によってはハラール対応の料理、またベジタリアン用の料理も可能な ICETT。さらには、すでに市議会にもお話をしておりますが、今年度中に大型スクリーンや電子採決表示システムが整備される

予定の四日市市議会本会議場の活用も可能かと思っております。温かいおもてなしの心で市をあげてお迎えしたいと思います。

こうした意味で、本市は総合力で考えて、正に最高の環境にあると自負しておりますので、ぜひ、サミットの開催に際して、四日市の地域資源や施設の有効活用を図っていただくように強く要望をさせていただきたいと思っております。

今後活用の決定、あるいは内定があればより詳細な計画案を提案する準備をしておりますので、その点もご配慮いただきまして、知事の見解も改めてお聞かせいただければと思います。よろしく申し上げます。

知 事

はい、ありがとうございます。先般 8 月 5 日に中山外務副大臣の所にジュニアサミットを今回開催してほしいということを要望に行ってきました。ジュニアサミットというのはご存じの方も多いたと思いますけれど、今回ドイツでは開催されましたが、その前は洞爺湖の時まで開催されていなかったので、開催される年と開催されない年があります。ですので、しっかり開催をしてほしいということ、そして開催するのであれば三重県で開催をしてほしいということを、8 月 5 日中山外務副大臣の元にご要望に行ってきました。その時は基本的に前向きに検討していただいているという感触を得て、帰ってきたわけでありますが、まだいつ内定とかいつ決まるというようなことについてはまだ連絡がございませんので、引き続き外務省に対しても働きかけをやっていきたいと思っております。

私どもの意向としましても、ジュニアサミットの開催が決定した折には、伊勢志摩地域以外で開催したいと思っております。で、各市町にお話をお伺いしたところ、四日市をはじめ複数の市が手を挙げていただいているという状況で、それは全て伊勢志摩地域以外でありますので、三重県で開催が決まれば、その中から選んでいきたいと思っております。今回四日市さんからご提案いただいたプラネタリウム、あるいは宇宙の関係、それから公害と環境未来館、そして ICETT との連携、これらいずれについても大変魅力的なテーマであります。先ほども少し申し上げました通り、プレスツアーの皆さんも昨日も寄っていただいたという状況でありますので、ぜひジュニアサミットの決定の折には、どういうところを見ていただけるか、そんなプランも一緒になって考えていきたいと思っております。

特にジュニアサミットは高校生なので、四日市の場合は県内唯一のスーパーグローバルハイスクールの四日市高校があります。ジュニアサミットでは高校生同士の交流も、参加者以外の現地の高校生との交流もやることが想定されておりますので、そういう意味ではスーパーグローバルハイスクールの高校生たち

が交流の場に来ていただくということは非常にありがたい事なのではないかと思っ
ています。

いずれにしましても、言っていただいたもののみならず食材、あるいは伝統工
芸品である万古焼、こういうものも、ご活用についての提案募集を今させて
いただいているところです。ぜひご提案をいただいて私たちも外務省と協議を
していきたいと思っております。

それからぜひお願いしたいことは、この四日市に限らない話ですけど、私
が最近よく申し上げていることがあります。日本の国際観光競争力というのは、
ダボス会議をやっている世界経済フォーラムによれば世界 14 位です。これでも
順位が上がってきている方なんですけれど、それをもう少し因数分解すると、
観光事業者によるホスピタリティという項目は世界 1 位なんです。だから、
ホテル観光事業者の皆さんの、飲食宿泊業者の皆さんのホスピタリティは世界
一なんだけれど、市民のアティテュード、市民の皆さんの受け入れの様子とか
対応というのが 127 位というようなことで、大変厳しい状況になっています。
ですので三重県としては、日本全体がどうあれ今回のサミットを契機に、市民
みんなで、県民みんなでそういうアティテュード、態度を養成していく、受入
をしていく機運を作る。いつどこでそういう外国の方々が来られても、それが
観光であろうがビジネスであろうが友人に会いに来たのであろうが、そういう
人たちに対しておもてなしの気持ちを発揮できる、アクションできる、そうい
うような地域にしていきたいと思っております。ぜひ先ほど市長からご提案い
ただいたジュニアサミットなどの関連行事も含めながら、そういう地域全体の
盛り上がりを作ることにご協力をいただければと思っております。

また、来年は日本で初めて行われる国際地学オリンピックが三重県で開催さ
れますので、プラネタリアム等は非常に地学オリンピックのテーマに、正にマ
ッチしているところであると思っておりますので、そのあたりでまたご相談させ
ただければと思っております。

2 ユネスコ無形文化遺産登録に向けた情報発信

四日市市長

今のサミットに関連して、知事から市民こぞってのおもてなしの体制の整備
についてというお話がありました。四日市としても現在、観光・シティプロモ
ーションの条例を策定中です。その中にも盛り込むつもりですが、おもてなし
の体制づくりは非常に大事だと思いますので心していきたいと思っております。
それからもう一点、ジュニアサミットが決まったら北勢地域で、メインの会場はひ
とつだと思っておりますが、会場を複数設定していただくようなことも合わせてご検

討いただければと思っております。よろしく願いいたします。

次に、これも一部サミットに関連しますが、「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録の推進と情報発信について提案をさせていただきます。

知事もご存知の通り、四日市の富田地区の鳥出神社の鯨船行事をはじめ、伊賀市の上野天神祭のダンジリ行事、桑名市の、桑名石取祭の祭車行事、これを含む全国33の国指定の重要無形民俗文化財につきまして、来年の秋に登録の審査が行われる予定と聞いております。四日市としても、登録推進に向けたPR活動を今盛んに行っておりますが、県内の3つの文化財を含むこともありまして、ぜひ県としても情報発信等に一層の力添えをお願いしたいという趣旨でございます。

具体的には、例えば、また伊勢志摩サミットに関連して恐縮ですが、海外に向けた情報発信の場として非常に有効な伊勢志摩サミットを活用して、この3つの文化財行事に関する共同のPR用のパネルを作ったり、パンフレットを作成したり、またサミットの本会議場等でその文化財の演技を披露するという場や機会の設定をお願いできないでしょうか。

また、県と文化財を有する3市との連絡調整会議のようなものを結成して一丸となって推進できるような体制をとるのも有効かと考えますが、知事の考えをお聞かせ願えればと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。今市長おっしゃっていただきましたように富田の鳥出神社の鯨船行事は毎年8月14日、15日に行われていて、私8月15日が誕生日ですから勝手に思い入れ持っているところであります。今おっしゃっていただきましたように来年10月に「山・鉾・屋台行事」がユネスコの事前審査の勧告を受けて、11月にユネスコ政府間委員会で審議されて登録の可否が決定されるというスケジュールになっており、大変重要な年になると思っています。先般、5月に山鉾連合会の皆さんが桑名にお見えになった時も、私も大会に参加させていただきましたが、非常に熱の高い「全国みんなで盛り上げていくぞ!」という感じがありましたので、県内においても登録に向けた機運の醸成を、やっていかなければと思っています。私たちも関係機関と連携して、ぜひそういう情報発信に努めていきたいと思っています。ですので、市長からおっしゃっていただいた連絡調整会議的なことは、今事務的に現状どうなっているかわかりませんが、少し前向きに検討したいと思いますので、事務方にちょっと少し検討をさせたいと思います。

サミットにおけるPRについては、首脳の方々とかにできるかどうかは分かりませんが、これから色々中身は検討していきますが、例えば三重

県情報館というのをメディアセンター内に作ります。そういうところに3つまとめてPRを出してみるというのもひとつの方法だと思いますし、何らかのPRみたいなものはどこかできないかと少し考えてみたいと思います。一方で「山・鉾・屋台行事」自体、その3つの行事が三重県にはあるというのをPRするのは結構いい事なんですけど、それを「ユネスコの審査待ちだ」と国際的な場でPRするのは、そういうことをやるのは逆効果になる時があるよと文化庁の方からも言われています。これはサミットの時にやるのが逆効果と具体的に言われているのではなくて、一般論としてそういう国際的な場の所で「ユネスコ審査待ち、ユネスコ審査待ち」みたいなPRをやると逆効果になることもあり得るので、PRは十分注意をしてPRされるといいですよ、とアドバイスを受けています。是非その辺りはせっきやくPRしたのに勿体ないみたいなことになってはダメですので、それは十分留意しながら、そういう地域の宝がある、地域の伝統があるということでのPRについて、また皆さんと相談しながら考えていきたいと思っています。

四日市市長

それでは2番目の今のテーマに関連して、四日市の文化力の情報発信についてももうひとつお願いしたいことがございます。

知事もご存知かと思いますが、四日市市では家族と絆をテーマにして全国にも例をみない非常にユニークな、全国ファミリー音楽コンクールというものを平成24年にスタートさせて今年で第4回を迎えることになっております。全国屈指の産業都市である四日市市が産業の活力だけではなくて、その独自色豊かな文化を育てて、そしてそれを全国に情報発信するためのシンボリックな事業でございます。その目指すところは元気な産業と輝く文化のまち、ひいては魅力と風格のある都市・四日市の実現、といったことではありますが、この事業は四日市だけではなく、やはり三重県の文化力をも一段と高める大きな可能性を秘めたチャレンジだと私は思っております。岡田文化財団さんをはじめ多くの団体や企業・個人のご支援をいただきながら回を重ね、着実に全国への知名度も高まってきております。つきましては、来年いよいよ5周年を迎えるにあたりまして、名実ともに全国に冠たる音楽コンクールへと飛躍させるために、ぜひともこの趣旨にご賛同いただいて三重県のさらなるご支援をお願いしたいと思っております。

このグランプリの演奏をサミットの会場で出られないかなと思ったのですが、全国ファミリー音楽コンクールに関する今後の展望について少し知事の考えをうかがえればと思います。

知 事

そうですね、今サミットの関連で色々な関係者を歓迎する色々なレセプションが様々あるわけですが、そのレセプションで披露する伝統芸能とか演奏とかパフォーマンスなどを現在募集させていただいております。市町を通じて募集させていただいていますから、そういうのでファミリー音楽コンクールを提案していただくのもひとつの手であると思っております。そういう中からどういった伝統芸能や演奏・パフォーマンスを披露するのが良いか考えていきたいと思っております。

そういう形で全国レベルのイベントをこの四日市で開催していただくというのは、今おっしゃっていただいたような四日市の新しいブランドづくりという意味では非常に意味があることだと思っておりますので、引き続き盛り上げていくように、我々も応援をしていきたいと思っております。

四日市市長

この音楽コンクールについては、家族によるアンサンブルであるということで温かいおもてなしのひとつになれば、という思いですのでよろしくお願い致します。

四日市市長

それでは次に3番目の課題ですが、時間の関係で3番目と4番目の課題を入れ替えさせていただきます。

3 多文化共生事業における三重県との連携について

四日市市長

それでは「多文化共生事業における三重県との連携について」というテーマでお話をいたします。実はリーマンショックの時に、少し減少はしましたが四日市市には現在8000人弱の外国人市民の方が居住しておられます。特に笹川地区には、ブラジルをはじめ南米系の外国人市民が集中しております。四日市市として多文化共生のモデル地区として指定をしております。景気の動向によっては帰国されるケースもありますが、三重大学のアンケート調査によれば、10年以上の在住者が約7割という結果が出ておりますので、定住型の傾向があると考えております。であれば、安定した就労とともに地域社会に参画をして名実ともに日本人市民と融合して生活する、いわゆる多文化共生のための取り組みがますます重要になってまいります。まずは、日本語の習得が必須なわけですが、地域における日本語教室の実施だけでは限界があります。そこで、

日常生活のかなりの部分を占める職場において日本語教育を行うことが実質的な成果を上げるために必要だと考えております。具体的に言えば外国人市民の就労先、約 6 割が四日市の場合市外の就労先であるわけですが、その就労先の事業所が日本語教育の実施について理解を示して、従業員教育の一環として日本語教育を自ら行ったり、あるいは日本語教室への参加促進を行っていただくことが必要だと思っております。そのためには、やはり県と市町が多文化共生に対する連携体制を強化して就労先の事業所へ共に働きかけを積極的に行っていくということが有効ではないかと思っております。県としてもぜひご協力をお願いいたします。

それからまた一方で、外国人の児童・生徒についても将来、社会的経済的に自立した市民として定住していただくことが望まれております。そのためには、外国人の児童・生徒の早い時期から高校進学の可能性とか、卒業後の見通しなど就労を見据えたいいわゆるキャリア形成、人生設計の重要性を知ってもらうことが肝要です。そうしたキャリア教育について、三重県の教育委員会として具体的な方向性を、統一的な方向性を示していただいて県と市が連携・協働して取り組みたいと考えておりますが、いかがでしょうか。この点についても、知事の意見をお聞かせください。

知 事

ありがとうございます。正に日本語習得の機会の提供は、大変重要だと思っております。まずは、市がやっただけに加えて、県では外国人住民に日本語を教えるボランティアの育成研修も実施しています。今年度は四日市市で2回開催させていただこうと思っておりますので、市町と連携してそういうボランティアの育成もまずやっていきたいと思っております。それから、市長がおっしゃっていただいた外国人労働者の労働環境改善に取り組むということやそういう場面での日本語の習得というような観点から、実は平成20年に愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市で「外国人労働者の適正雇用と日本社会への適応を促進するための憲章」というのを策定しました。その中に「日本語教育及び日本の文化や慣習等についての理解を深める機会を提供すること」という条文が入っておりまして、交代しながら憲章に基づいたセミナーを3県1市（平成24年2月から静岡県を加えた4県1市）で協力して開催しております。昨年度は愛知県の刈谷市でやって、今年は岐阜で、来年度は三重県で開催するので、そういう外国人労働者の適正雇用とか、多文化共生を推進する機会にしていきたいと思っております。先ほど市長がおっしゃっていただいたような企業への日本語教室参加促進への働きかけ、これについては市・県・地元の商工会議所などそういう所と連携して各企業に対する必要性の説明や参加促進の働きかけ

をしていきたいと思いをします。

それから外国人児童・生徒でありますけど、実は人口分の日本語指導の必要な児童生徒数というのは三重県全国3位。東京都・愛知県の次に多いということです。外国人児童・生徒に対する日本語指導というのは大変重要だと思っています。そのキャリア教育も合わせてということで、現在四日市市の笹川地区を今年度から3年間モデル地域に指定して、NPO 法人さんと連携しながら進めています。先ほど市長がおっしゃっていただいたような進学、上級学校の見学ツアー、これによって学習意欲を高めていこうとか、上級学校へ進学していく学校文化への理解を促す保護者向けのセミナー、こういうのも本年度から3年間、笹川地区をモデル地域に指定して市と NPO と連携してやっていきたいと思いをします。その後で就労のあり方についてのキャリア教育も一緒になってやっていけたらと思っておりますので、この地域の基礎的な生活の部分であるとともに一点特殊な専門性などが問われる部分でありますので、県としてもしっかりと協力して取り組んでいきたいと思いをします。

四日市市長

ありがとうございました。子ども、大人も含めて日本語教育と就労、それからキャリア教育、それらについてぜひよろしくをお願いします。

4 県立工業高校における専攻科設置について

四日市市長

それでは、最後のテーマ「県立工業高校における専攻科設置について」でございます。この件については昨年の1対1対談において、私の方から提案させていただいて、知事からも大変前向きなお答えをいただきました。全国屈指の産業都市である本市にとりましては、ものづくり産業のスペシャリストの育成ということは地方創生という観点からも非常に重要な取り組みであり、大いに期待しております。

市といたしましても、県と連携した取り組みを今後しっかり進めていきたいと考えておりますので、今後のスケジュールなど分かっているところがあれば教えていただきたいのと、このテーマに関する県と四日市市との連携の在り方について知事の考えをお伺いしたいと思いをします。

知事

ありがとうございます。学校教育法改正の法律が無事に6月に成立しましたので、来年の4月から専攻科を設置してその専攻科を修了したら大学への編入

とか短大卒の資格が得られるということになりました。ですので、がぜん専攻科のインセンティブが高まったということだと思います。県としましてはそれを受けてこの9月の下旬をめどに北勢地域の企業経営者・学識経験者などからなる専攻科設置検討委員会を作りまして、専攻科設置に向けた協議を行っていきます。教育内容・設置学科・設置場所・企業や地元市町との連携の在り方、こういうことを含めて協議をしていこうと思っておりますし、その委員会だけではなかなかできないところもあると思いますので、ワーキンググループも設置して、専攻科設置に向けた準備を進めていきたいと思っております。

どういう専攻科、どういう学科を設置するかによってどういう設備やどういう教員が必要か決まってくるというのもありますので、開校のスケジュールというのはなかなか今お示しするのは難しいですけど、せつかくですからニーズに合致した専攻科でありたいと思っております。この協議を踏まえて、そしてどういう設備やあるいは教員の確保が必要かということ踏まえた形で開校スケジュールを考えていきたいと思っております。

四日市市長

四日市としてもできる限りのことを協力させていただきたいと思っておりますので、ぜひ教えていただければと思います。

ありがとうございました。

(3) 閉会あいさつ

知 事

もうさっき拍手していただいたので、最後のあいさつはもういいかなと思います。ありがとうございました。